# 地域を支えるくま川鉄道

私たちの生活を支えているくま川鉄道。利用者減に歯止めをかけ、このレールを未来へつなぐために挑戦を続けています。

## 廃線の危機を経験

くま川鉄道の前身は、大正13年（1924年）に開通した旧国鉄湯前線です。平成元年（1989年）10月1日から人吉温泉駅～湯前駅の24・8キロメートルを、人吉球磨地域の市町村などが出資する第三セクター「くま川鉄道株式会社」が運営しています。

山々に囲まれた球磨盆地を走る湯前線は、豊富な森林資源を生かし、木材を載せた貨物列車が毎日のように運行した時期がありました。しかし、トラック輸送の発達や安価な外国産木材などの需要に押され、多良木～湯前間、続いて人吉～多良木間の貨物列車が次々と廃止。列車の利用者も自動車の普及とともに減ってきました。湯前線自体も廃止の方針が決定。湯前線は国鉄分割民営化後に発足したJR九州に移管されましたが、あくまでも廃止することが前提でした。

くま川鉄道の利用者の大部分を占めるのは、沿線の高校に通う学生たちです。通学生の利用が多い湯前線を残そうと地域住民が協力し、存続運動を沿線地域で展開。地域住民の支援もあり、行政と民間が出資する第三セクターでの存続が決まり今に至ります。

▶木材を載せ湯前線を走る蒸気機関車（福井弘さん提供）

## 利用者減少を打破するために

人吉球磨地域の重要な公共交通「くま川鉄道」はことし30年目を迎え、旧湯前線開通から94年を数えます。くま川鉄道開業当時は年間140万人を超える利用者数でしたが、近年はピーク時の半分程度に。経営も発足当時から赤字が続き、人吉球磨10市町村の拠出や寄付金による基金も底をついています。現在は、人吉球磨10市町村の経営安定化補助金で赤字を補っている状況です。

現状を打破しようとくま川鉄道株式会社では、地域と一緒になってさまざまな事業に挑戦してきました。平成26年には観光客を増やそうと観光列車「田園シンフォニー」を導入。おかげめ幸福駅（あさぎり町）や湯前駅では、行政や民間と協力しながらカフェの出店など沿線の魅力を充実。川村駅（相良村）などでは、地域住民の協力を得て、鉄道利用者へのおもてなしにも力を入れています。

## 過去と現状を知り未来へ

くま川鉄道がこれからも人吉球磨地域の公共交通機関として存続していくために。私たち住民一人一人がくま川鉄道を見つめ直し、鉄道や沿線の魅力を再発見し、利用をし続ける必要があります。

球磨川第四橋梁（相良村、錦町）や湯前駅舎など19件の施設は、国の文化財に登録されています。文化としての価値や観光面の魅力がたくさんあるくま川鉄道。次のページでは鉄道沿線の魅力を紹介します。

INTERVIEW　くま川鉄道株式会社の永江社長に話を聞きました。

くま川鉄道株式会社
永江（ながえ） 友二（ゆうじ） 取締役社長

## 地域と人と時をつなぐ鉄道に

くま川鉄道は、高校生や沿線に住む住民にとって重要な交通手段です。この鉄道を残すには、地域の人の協力が必要です。鉄道がなくなり街が衰退した地域はたくさんあります。鉄道がなくなると、確実に人口減少につながります。街を盛り上げるためにも、各地域のイベントにくま川鉄道を絡めてもらい、地域と連携して街の活性化につながればうれしいです。

ことし開業30年目を迎えたくま川鉄道では、日頃の感謝を込めたお得な乗車券や貸切列車の運行を計画中です。一人でも多くの人に乗っていただきたいと考えています。

人吉球磨地域が発展してきたのは、鉄道のおかげです。くま川鉄道はこれからも地域と人、時をつないでいきます。





# 未来につなぐレール

この特集は、人吉市・錦町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村・あさぎり町の広報担当者が協力して作りました。

人吉～湯前間をつなぐくま川鉄道は、ことし10月１日で開業30年目を迎えました。開業以来、高校生の通学や住民、観光客の交通手段としての重要な役割を果たしていますが、利用者は減少し続けています。

くま川鉄道株式会社や沿線地域では、お得な乗車券の販売計画やさまざまなおもてなしに取り組み、これから先もくま川鉄道を残そうとしています。

今回は、くま川鉄道の歴史や魅力を紹介。くま川鉄道の魅力を感じる旅に出掛けてみませんか？